

瀉血療法を始めました



医療法人
岡村一心堂病院

よりよい医療を
地域の人々に

岡山市東区西大寺南 2-1-7
Tel 086-942-9900
URL : <http://www.issshin.or.jp/>
E-mail : info@issshin.or.jp

瀉血療法を始めました

～ C 型慢性肝炎に対する瀉血療法について ～

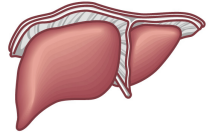
理事長 岡村 一博

瀉血とは体内の血液を抜き取ることです。献血の経験のある方はご存知のとおり、静脈に針を刺して専用バッグの中に、200 ml の血液を採取します。従来は血液疾患で高度の鉄過剰症の方や、多血症の方に実施されてきましたが、近年になって、瀉血療法が C 型慢性肝炎や非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) の改善に高い効果があることがわかってきました。



【瀉血の目的】

鉄は過剰にあると活性酸素の影響で組織障害 (炎症) を起こしやすくなります。特に C 型慢性肝炎や非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) で肝臓にダメージがあるとさらに肝細胞の破壊が進みます。血液中の赤血球の中にあるヘモグロビンという色素には鉄が入っています。鉄は赤血球を作り出すにはかかせない物質のひとつで、瀉血をして赤血球を減らす (同時にヘモグロビンも減ります) と、体が新たな赤血球を作り出そうとして、肝臓の中に貯蔵してある鉄を利用しようとし、その結果、肝臓内の鉄が減ると肝臓の炎症がおさまってくる、というわけです。



【瀉血療法の対象者】

C 型肝炎の治療は、インターフェロンなどの薬を使ってウィルスを駆除することが基本ですが、ウィルスが薬の効きにくい遺伝子タイプや年齢、体力などの問題で薬物治療ができない方で、肝機能障害が続く (AST、ALT がずっと高い) 方には良い治療法と言えます。

【実際の瀉血療法】

体内の鉄の貯蔵量の指標である「血清フェリチン値」が、20 ng/ml 以下を目標とします。まずは、初期治療として、1回 200ml の血液を 2 週間ごとに血清フェリチン値が 20 ng/ml 以下になるまで数回瀉血します。(途中、貧血が進行してヘモグロビン値が 10 g/dl を下回ると瀉血は一旦中止となります) あとは定期的に血清フェリチン値を測定して、20 ng/ml を超えたら、20 ng/ml 以下になるように適宜瀉血を実施します。(維持瀉血)

【瀉血時の注意点】

瀉血時には献血時と同様に、血管迷走神経反射 (頻度は 1% 以下) に注意が必要です。血管迷走神経反射とは、自律神経系の突然の失調により血圧や心拍数の減少などの循環不全によってあくびや発汗、気分不良、めまい、ひどくなると失神といった症状が起こることです。ただし、これは一時的なものなので心配ありません。

【鉄制限療法】

瀉血療法を実施すると貧血傾向になるため、赤血球を作りだす骨髄の機能が亢進します。その結果、消化管からの鉄吸収能も高まり、吸収した鉄は門脈 (肝臓の栄養血管) を通って肝臓へ到達します。すると鉄が肝臓に溜まり炎症が再燃する危険性が高まります。これを防ぐために鉄制限療法 (食事療法) も併せておこなう必要があります。鉄制限療法はさらに瀉血療法の効果を高めることも確認されています。

* 当院での瀉血療法は、玉野市立玉野市民病院 三島院長、木村主任医長よりご指導いただいております。

